

2008年10月15日

北海道知事 高橋はるみ 様

「脱原発・クリーンエネルギー」市民の会

代表	船橋	奈穂美
代表	小野	有五
代表	山田	剛
代表	山田	富士雄
代表	藤門	弘

道・地元4町村主催「プルサーマル計画に関するシンポジウム」に関する公開質問状

10月12日、道と地元4町村が、岩内地方文化センターにおいて開催した「プルサーマル計画に関する公開シンポジウム～みんなで考えるプルサーマル計画～」は、極めて問題のあるものと言わざるを得なかった。シンポジウム冒頭、山本副知事が「プルサーマル計画について地元のみならず、広く道民から意見をいただく」と挨拶したにもかかわらず、シンポジウムでは会場からの意見を聴く時間を十分に確保することなく、発言を地元住民に限定し、さらには多くの発言を希望する参加者を切り捨てシンポジウムの終了を強行した。このような道民の意見を封殺し、シンポジウム実施の既成事実のみを積み重ねる道の不当な姿勢は断じて容認できるものではない。私たちは、道民を無視し、民主主義を否定した道に対して抗議する。

以下に、具体的な問題点を指摘するので、10月17日までに明快な回答を求めよう。

記

1. 特別講演「低炭素社会への誘い」は、直接プルサーマル計画に直接関係せず悪戯に時間を浪費した。これによってパネルディスカッションの時間が大幅に削減され、道民の発言の機会を奪ったと考えるが道の見解を明らかにすること。
2. シンポジウム参加者全員に事前に、中間報告そのものを配布していないのは、道が本シンポジウムを中間報告の意見を求める場と位置づけていなかったことの現れと考えるが道の見解を明らかにすること。
3. 検討会議会長による中間報告説明の内容が、検討会議の検討状況を単に説明しただけで、結論に至った検討の経過・理由、詳細かつ具体的な結論については何ら言及しなかった理由について明らかにすること。
4. 特別講演ですら質疑を受け付けたにもかかわらず、検討会議会長による中間報告説明が終了した後、質疑が設定されていなかった理由を明らかにすること。
5. パネルディスカッションにおいて、中間報告について言及されことなく、さらには中間報告に対する質問を求めなかった理由を明らかにすること。

6. パネルディスカッションのコーディネータは、参加者に対して「うるさい」などと口汚く罵るなど極めて資質に欠けていた。当然、道には任命責任があると考えるが、道の見解を明らかにすること。
7. 私たちの質問に対する 9 月 19 日付け回答において道は、「有識者検討会議の小林副会長には、他のパネリストからの質問に答える形で、有識者検討会議におけるプルサーマル計画の安全性に係る議論のポイントなどについて発言していただくこととしています」としていた。しかし、他のパネリストからの質問が無い中、コーディネータの求めに応じ小林副会長は持論を展開し、プルサーマル計画の必要性を強調した。プルサーマル計画の必要性について何ら疑念を持たない推進派である小林氏は、プルサーマル計画の安全性を審査し、道民生活の安全を確保する検討会議の副会長として、客観性・公正性に欠ける不適切な人物と考えるが、道の考えを明らかにすること。
8. 同じく 9 月 19 日付け回答において道は、「このシンポジウムでは、有識者検討会議の検討状況の中間報告を行い、地元をはじめとする道民の皆様から幅広くご意見をいただくことをねらいとしており」としているが、道として十分にシンポジウムのねらいが達成できたと考えているのかを明らかにすること。仮に達成できたとした場合、その具体的根拠を明らかにすること。
9. 同じく 9 月 19 日付けで道は、「できるだけ多くの方々のご意見をいただけるように運営していきたい」との回答を示した。当日会場には、発言を求めている参加者が多数いたにもかかわらず強引にコーディネータがシンポジウムの終了を強行した。今回のシンポジウムで私たちに示した回答どおり、道として多くの方々の意見を聴くことができたものと評価しているのかを明らかにすること。
10. 現在、中間報告は、ホームページと本庁・支庁に出向くなど限られた人しか閲覧することができず、意見の提出先も本庁のみとなっている。これでは、一部の限られた人しか中間報告を手にとることができず、ましてや意見を提出できる人に至っては限定されるのは明らかである。さらに、「今後、道民の意見を聴くため、同様のシンポジウムなど開催するのか」との会場の質問に対する「予定していない」との道の回答などは、中間報告に対する多くの道民からの幅広く意見を聴き、検討会議に反映するとしてきた従来の道の姿勢すら疑わざるを得ない。改めて道としての道民からの意見募集に関する考えを明らかにすること。また、道としてシンポジウムなど新たに道民の意見を聴く機会を設ける準備があるかを明らかにすること。

以上